

—2014 年度業務実施結果に対する評価・提言— (1) 対話活動

Ⅱ 地層処分事業を進めるための対話活動

1. 全国を対象とした対話活動

事業計画	業務実施結果	評価委員会による評価																																																																										
<p>Ⅱ-1.1 2014 年度はこれまで以上に積極的に全国各地に出向き、多くの方と直接対話を行う活動に力を入れる。具体的には、全国30都市でシンポジウムを開催し、NUMOの職員自らが登壇して地域のみなさまに直接説明すること、全国の科学館等に出向いて地層処分模型展示車の巡回展示を行うことなどを通じて、多くの地域のみなさまとの対話活動を実施していく。</p> <p><b>シンポジウム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シンポジウムを開催し、NUMOの職員自らが登壇して地域のみなさまに直接説明すること。</li> </ul> <p>【目標値】 全国30都市でシンポジウム開催</p>	<p><b>シンポジウム</b></p> <table border="1" data-bbox="813 415 1679 478"> <tr> <td>29都市 ※台風により1回中止</td> <td>参加者数 1,753名</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>NUMOの職員自らが地域のみなさまに対して高レベル放射性廃棄物の状況や地層処分事業の現状・課題の説明を行い、意見交換をする場として、全国でシンポジウムを開催した。(テーマ:「地層処分を考える～高レベル放射性廃棄物の処分問題について、一緒に考えてみませんか?～」)</li> <li>2013年度の3大都市シンポを踏まえ、全国30都市で計画し、29都市で開催。多くの方にNUMO職員が直接事業の説明を行なった。</li> <li>NUMOからの事業概要説明、地域の方(地元マスコミ関係者、大学生等)に登壇いただきご意見・ご質問を頂戴するパネルディスカッション、更には会場の参加者との質疑応答を行った。また頂戴した質問はすべてに回答した。</li> <li>開催後のアンケートでは、「一般の人達に理解してもらおう場として何より有効。」「いろいろな立場の人の声が聞けて良かった。」など、約9割の参加者から「地層処分への興味・関心が深まった」との回答を得た。しかし、一部には「専門用語が多く、内容が難しかった。」「リスクの説明が少なく不安が残る。」「内容が難しい」「安全性に不安」との声もあったため、よりわかりやすい説明への工夫が必要である。</li> </ul> <p>＜開催実績＞</p> <table border="1" data-bbox="955 1121 1715 1871"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>開催日</th> <th>開催場所</th> <th>来場者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>5/31(土)</td><td>宮城県仙台市</td><td>67名</td></tr> <tr><td>2</td><td>6/7(土)</td><td>北海道札幌市</td><td>84名</td></tr> <tr><td>3</td><td>6/14(土)</td><td>富山県富山市</td><td>58名</td></tr> <tr><td>4</td><td>6/28(土)</td><td>香川県高松市</td><td>65名</td></tr> <tr><td>5</td><td>7/6(日)</td><td>広島県広島市</td><td>75名</td></tr> <tr><td>6</td><td>7/13(日)</td><td>福岡県福岡市</td><td>55名</td></tr> <tr><td>7</td><td>7/20(日)</td><td>三重県津市</td><td>48名</td></tr> <tr><td>8</td><td>7/26(土)</td><td>兵庫県神戸市</td><td>91名</td></tr> <tr><td>9</td><td>8/2(土)</td><td>徳島県徳島市</td><td>51名</td></tr> <tr><td>10</td><td>8/31(日)</td><td>山形県山形市</td><td>41名</td></tr> <tr><td>11</td><td>9/6(土)</td><td>奈良県奈良市</td><td>71名</td></tr> <tr><td>12</td><td>9/13(土)</td><td>熊本県熊本市</td><td>35名</td></tr> <tr><td>13</td><td>9/20(土)</td><td>神奈川県横浜市</td><td>60名</td></tr> <tr><td>14</td><td>9/27(土)</td><td>秋田県秋田市</td><td>41名</td></tr> <tr><td>15</td><td>10/4(土)</td><td>岡山県岡山市</td><td>43名</td></tr> <tr><td>16</td><td>10/12(日)</td><td>埼玉県さいたま市</td><td>63名</td></tr> <tr><td>17</td><td>10/19(日)</td><td>岩手県盛岡市</td><td>40名</td></tr> </tbody> </table>	29都市 ※台風により1回中止	参加者数 1,753名	回	開催日	開催場所	来場者数	1	5/31(土)	宮城県仙台市	67名	2	6/7(土)	北海道札幌市	84名	3	6/14(土)	富山県富山市	58名	4	6/28(土)	香川県高松市	65名	5	7/6(日)	広島県広島市	75名	6	7/13(日)	福岡県福岡市	55名	7	7/20(日)	三重県津市	48名	8	7/26(土)	兵庫県神戸市	91名	9	8/2(土)	徳島県徳島市	51名	10	8/31(日)	山形県山形市	41名	11	9/6(土)	奈良県奈良市	71名	12	9/13(土)	熊本県熊本市	35名	13	9/20(土)	神奈川県横浜市	60名	14	9/27(土)	秋田県秋田市	41名	15	10/4(土)	岡山県岡山市	43名	16	10/12(日)	埼玉県さいたま市	63名	17	10/19(日)	岩手県盛岡市	40名	<p><b>シンポジウムおよび地層処分模型車の巡回展示</b></p> <p>評価 B (AABBBC)</p> <p>シンポジウムの開催回数、NUMO職員と参加者との直接対話の実施などについては評価できるが、参加者の少なさなどに改善点を残した。</p> <p>地層処分模型展示車の巡回展示は、一般の人にガラス固化体の実物大模型に接してもらえること、並びに子供の科学的関心の育成に有用であり、中長期的視点からも事業の理解促進につながる。</p> <p>課題</p> <p>シンポジウムでは、まず集客力の増強が必要条件。そのためには事前のネット上での案内やSNSを使った周知拡大を、従来メディアの活用とともに、多様な手法を通じて広範に行うべきである。オピニオンリーダー等の協力を得て関心喚起を図ることも検討の価値があろう。インターネットの活用にあたっては専門家の助言を仰ぐことが必要である。</p> <p>処分場の募集開始から既に10年以上が経過しており、シンポジウムは全国のどこかで多数回開催できればとりあえず前進という段階は終わっている。処分場建設の切迫性が国民に理解されるよう、NUMOはシンポジウムにおいても事業推進に向けての明確な意志を積極的に示すべきである。反対意見が多い一部の会場を除いて、参加者の間に他人の空気があることにも留意すべきである。アピール力と戦略性の強化が必要である。</p> <p>2015年度以降、地域の合意と国民の理解を得るためのシンポジウムとするためには、開催の目的や内容の明確化に腐心すべきである。全国広報については、処分場を受け入れた住民に対する国民的な理解と感謝の念の醸成につながる要素を加えるべきである。</p> <p>広聴の情報源であるアンケートに関しては、重要な部分において分析の不十分な点があり、改善が必要である。</p> <p>地層処分模型展示車の巡回展示は、夏休み期間の有効利用も考えるべき。模型や実験を活用してのより明確な情報の発信が望まれる。</p>
29都市 ※台風により1回中止	参加者数 1,753名																																																																											
回	開催日	開催場所	来場者数																																																																									
1	5/31(土)	宮城県仙台市	67名																																																																									
2	6/7(土)	北海道札幌市	84名																																																																									
3	6/14(土)	富山県富山市	58名																																																																									
4	6/28(土)	香川県高松市	65名																																																																									
5	7/6(日)	広島県広島市	75名																																																																									
6	7/13(日)	福岡県福岡市	55名																																																																									
7	7/20(日)	三重県津市	48名																																																																									
8	7/26(土)	兵庫県神戸市	91名																																																																									
9	8/2(土)	徳島県徳島市	51名																																																																									
10	8/31(日)	山形県山形市	41名																																																																									
11	9/6(土)	奈良県奈良市	71名																																																																									
12	9/13(土)	熊本県熊本市	35名																																																																									
13	9/20(土)	神奈川県横浜市	60名																																																																									
14	9/27(土)	秋田県秋田市	41名																																																																									
15	10/4(土)	岡山県岡山市	43名																																																																									
16	10/12(日)	埼玉県さいたま市	63名																																																																									
17	10/19(日)	岩手県盛岡市	40名																																																																									

事業計画	業務実施結果				評価委員会による評価
	18	11/ 3(月)	北海道釧路市	114名	
	19	11/ 8(土)	大分県大分市	51名	
	20	11/15(土)	長野県長野市	41名	
	21	11/22(土)	新潟県新潟市	52名	
	22	11/30(日)	石川県金沢市	67名	
	23	12/ 6(土)	山口県山口市	60名	
	24	12/14(日)	京都府京都市	60名	
	25	12/21(日)	静岡県静岡市	81名	
	26	2/ 1(日)	茨城県水戸市	86名	
	27	2/ 7(土)	和歌山県和歌山市	60名	
	28	2/14(土)	高知県高知市	55名	
	29	3 / 1(日)	山梨県甲府市	38名	
	計			1, 753名	
	<p>[開催後の主なアンケート内容]</p> <p>【アンケート集計結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シンポジウムに参加してよかったという人は、全体の約8割</li> <li>・「概要説明資料」や「概要説明の仕方」については、わかりやすいという人は約8割（わかりにくいと答えた方の割合は女性が多い）</li> <li>・「高レベル放射性廃棄物の地層処分」について、興味・関心が深まった人は約9割</li> <li>・「高レベル放射性廃棄物の地層処分」について、理解できた人は約8割（理解できなかったと答えた方は女性の割合が多い）</li> <li>・地層処分をより身近に感じられるようになった人は、約8割</li> <li>・知りたかった内容や疑問が議論されたという人は約7割だが、問題に対して適切な情報発信を行っていると思う人は5割弱に減少</li> <li>・高レベル放射性廃棄物の地層処分を進めることに対しては、賛成者が約7割（反対と答えた方は女性の割合が多い）</li> <li>・高レベル放射性廃棄物の地層処分の安全性が検討されていると思った人は約8割</li> <li>・NUMO が施策を進めている機関として信頼できるかについて、信頼できると答えた人は6割強で低い結果（信頼できないと答えた方の割合は女性が多い）</li> <li>・NUMO は中立・公正な立場で問題を考えていると答えた人は5割と低い結果（考えていないと答えた方は女性の割合が多い）</li> </ul> <p>【主なご意見】</p> <p>（理解）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合意形成の課題・プロセスについての重要性等理解できた。</li> <li>・説明が地層処分ありきの説明になっていた。</li> <li>・事業スケジュールが明確になっていない。今後の進め方の理解が難しかった。科学的有望地の選定については重要と理解するが、選定方法等に不安がある。</li> </ul> <p>（進行）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NUMOの職員から直接回答を聞いたことは良かった。</li> <li>・質問に全て回答してもらえたことは良かった。</li> <li>・解答者の答え方が明確でない。もっと勉強すべき。</li> <li>・デメリットについても説明してほしい。</li> </ul>				

事業計画	業務実施結果	評価委員会による評価																																																																																								
<p>地層処分模型展示車の巡回展示</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シンポジウム開催地近郊や全国の科学館等に出向いて地層処分模型展示車の巡回展示を行い、地域のみなさまとの対話活動を実施していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>批判的な人も出してほしい。</li> <li>主婦、学生が登壇したので、この問題を身近に考えることになった。</li> <li>登壇者の知識のレベルによってはディスカッションの進行が成立しづらいのでは。</li> </ul> <p>地層処分模型展示車の巡回展示</p> <table border="1" data-bbox="816 432 1679 495"> <tr> <td>27地点</td> <td>38日</td> <td>乗車者数</td> <td>3,442名</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>シンポジウム開催地近郊の中核都市の全国の科学館や商業施設で地層処分模型展示車の巡回展示を実施。地層処分事業に関する理解訴求を行った。</li> <li>展示内容は、3D映像の上映、多重バリアシステムの模型展示およびベントナイトの実験等を通じてわかりやすく情報の提供をするとともに、職員がフェイス・トゥ・フェイスの説明による対話活動を実施した。</li> <li>会場でのアンケートでは、「地層処分への取組状況について理解が進んだ」「地層処分を国民的課題として広く議論すべきと認識した」等の回答があったため、このような具体的な展示物等を利用した対話活動には、地層処分への興味・関心を深めていただくことに一定の効果があったものとする。</li> </ul> <p>&lt;開催実績&gt;</p> <table border="1" data-bbox="899 884 1828 1873"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>開催日</th> <th>開催場所</th> <th>来場者数(乗車数)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>5/27(火)</td><td>宮城県名取市</td><td>163名(34名乗車)</td></tr> <tr><td>2</td><td>6/9(月)</td><td>北海道北見市</td><td>39名(21名乗車)</td></tr> <tr><td>3</td><td>6/10(火)</td><td>北海道帯広市</td><td>253名(10名乗車)</td></tr> <tr><td>4</td><td>6/11(水)</td><td>北海道苫小牧市</td><td>268名(40名乗車)</td></tr> <tr><td>5</td><td>6/13(金)</td><td>富山県高岡市</td><td>406名(59名乗車)</td></tr> <tr><td>6</td><td>6/29(日)</td><td>香川県坂出市</td><td>229名(49名乗車)</td></tr> <tr><td>7</td><td>7/7(月)</td><td>広島県東広島市</td><td>303名(20名乗車)</td></tr> <tr><td>8</td><td>7/12(土)</td><td>福岡県久留米市</td><td>138名(35名乗車)</td></tr> <tr><td>9</td><td>7/13(日)</td><td>福岡県北九州市</td><td>149名(32名乗車)</td></tr> <tr><td>10</td><td>7/18(金)</td><td>三重県四日市市</td><td>329名(27名乗車)</td></tr> <tr><td>11</td><td>7/19(土)</td><td>三重県松阪市</td><td>690名(61名乗車)</td></tr> <tr><td>12</td><td>7/25(金)</td><td>兵庫県豊岡市</td><td>160名(33名乗車)</td></tr> <tr><td>13</td><td>8/3(日)</td><td>徳島県阿南市</td><td>23名(23名乗車)</td></tr> <tr><td>14</td><td>8/10(日)</td><td>千葉県船橋市 (東邦大学)</td><td>128名(61名乗車)</td></tr> <tr><td>15</td><td>8/29(金)</td><td>山形県酒田市</td><td>410名(13名乗車)</td></tr> <tr><td>16</td><td>9/5(金)</td><td>奈良県橿原市</td><td>364名(22名乗車)</td></tr> <tr><td>17</td><td>9/15(月)</td><td>熊本県八代市</td><td>292名(50名乗車)</td></tr> <tr><td>18</td><td>10/8(水) ~9(木)</td><td>愛知県名古屋 (中部電力テクノフェア)</td><td>1,051名(711名乗車)</td></tr> <tr><td>19</td><td>10/11(土) ~13(祝)</td><td>福井県敦賀市 (原子力科学館)</td><td>662名(662名乗車)</td></tr> <tr><td>20</td><td>11/7(金)</td><td>東京お台場</td><td>509名(187名乗車)</td></tr> </tbody> </table>	27地点	38日	乗車者数	3,442名	回	開催日	開催場所	来場者数(乗車数)	1	5/27(火)	宮城県名取市	163名(34名乗車)	2	6/9(月)	北海道北見市	39名(21名乗車)	3	6/10(火)	北海道帯広市	253名(10名乗車)	4	6/11(水)	北海道苫小牧市	268名(40名乗車)	5	6/13(金)	富山県高岡市	406名(59名乗車)	6	6/29(日)	香川県坂出市	229名(49名乗車)	7	7/7(月)	広島県東広島市	303名(20名乗車)	8	7/12(土)	福岡県久留米市	138名(35名乗車)	9	7/13(日)	福岡県北九州市	149名(32名乗車)	10	7/18(金)	三重県四日市市	329名(27名乗車)	11	7/19(土)	三重県松阪市	690名(61名乗車)	12	7/25(金)	兵庫県豊岡市	160名(33名乗車)	13	8/3(日)	徳島県阿南市	23名(23名乗車)	14	8/10(日)	千葉県船橋市 (東邦大学)	128名(61名乗車)	15	8/29(金)	山形県酒田市	410名(13名乗車)	16	9/5(金)	奈良県橿原市	364名(22名乗車)	17	9/15(月)	熊本県八代市	292名(50名乗車)	18	10/8(水) ~9(木)	愛知県名古屋 (中部電力テクノフェア)	1,051名(711名乗車)	19	10/11(土) ~13(祝)	福井県敦賀市 (原子力科学館)	662名(662名乗車)	20	11/7(金)	東京お台場	509名(187名乗車)	
27地点	38日	乗車者数	3,442名																																																																																							
回	開催日	開催場所	来場者数(乗車数)																																																																																							
1	5/27(火)	宮城県名取市	163名(34名乗車)																																																																																							
2	6/9(月)	北海道北見市	39名(21名乗車)																																																																																							
3	6/10(火)	北海道帯広市	253名(10名乗車)																																																																																							
4	6/11(水)	北海道苫小牧市	268名(40名乗車)																																																																																							
5	6/13(金)	富山県高岡市	406名(59名乗車)																																																																																							
6	6/29(日)	香川県坂出市	229名(49名乗車)																																																																																							
7	7/7(月)	広島県東広島市	303名(20名乗車)																																																																																							
8	7/12(土)	福岡県久留米市	138名(35名乗車)																																																																																							
9	7/13(日)	福岡県北九州市	149名(32名乗車)																																																																																							
10	7/18(金)	三重県四日市市	329名(27名乗車)																																																																																							
11	7/19(土)	三重県松阪市	690名(61名乗車)																																																																																							
12	7/25(金)	兵庫県豊岡市	160名(33名乗車)																																																																																							
13	8/3(日)	徳島県阿南市	23名(23名乗車)																																																																																							
14	8/10(日)	千葉県船橋市 (東邦大学)	128名(61名乗車)																																																																																							
15	8/29(金)	山形県酒田市	410名(13名乗車)																																																																																							
16	9/5(金)	奈良県橿原市	364名(22名乗車)																																																																																							
17	9/15(月)	熊本県八代市	292名(50名乗車)																																																																																							
18	10/8(水) ~9(木)	愛知県名古屋 (中部電力テクノフェア)	1,051名(711名乗車)																																																																																							
19	10/11(土) ~13(祝)	福井県敦賀市 (原子力科学館)	662名(662名乗車)																																																																																							
20	11/7(金)	東京お台場	509名(187名乗車)																																																																																							

事業計画		業務実施結果				評価委員会による評価			
			～9(日)	(サイエンスアゴラ)					
		21	1/18(日)	静岡県浜松市	376名(164名乗車)				
		22	1/24(土) ～25(日)	大阪市西区 (大阪科学技術館)	225名(183名乗車)				
		23	2/8(日)	和歌山県新宮市	55名(54名乗車)				
		24	2/21(土) ～22(日)	岡山県岡山市	407名(407名乗車)				
		25	3/1(日) ～3(火)	東京都千代田区 (科学技術館)	283名(114名乗車)				
		26	3/14(土) ～15(日)	京都府福知山市 (福知山児童科学館)	152名(54名乗車)				
		27	3/28(土) ～29(日)	東京都港区 (東京タワー)	846名(316名乗車)				
		計	27回(38日間)		8,910名(3,442名乗車)				
		<p>[開催後の主なアンケート内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地層処分についての3D映像を見て、このような取組を行っていることが理解できた。</li> <li>・とてもわかりやすいDVDと説明で良く理解できた。もっと宣伝して日本中に広め、議論すべきだと思った。</li> <li>・実験を通してベントナイトが水を通さないという性質が理解できた。</li> </ul>							
II-1.2	<p>対話活動については、地層処分の選定経緯、地層処分の技術的信頼性、事業プロセス、地域共生への取組み等に関して、地域のみならず対話相手のニーズに合わせて丁寧に説明し、地層処分事業に関心を持っていただけるよう実施していく。</p> <p><b>全国の諸団体への訪問</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントの開催地域の自治体や経済団体に対して、地層処分事業やNUMO業務の説明を行うとともに、イベントの紹介と参加をお願いする。</li> </ul>	<p><b>全国の諸団体への訪問実績</b></p> <table border="1"> <tr> <td>自治体：64ヶ所、127回</td> </tr> <tr> <td>諸団体（経済団体含む）：130ヶ所、241回</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度に開始した経済団体訪問を継続しながら、2014年度からは訪問活動を強化。</li> <li>・在京および在阪の経済団体等（19団体）に対し、NUMO職員による説明会を実施し、うち1団体の広報誌に地層処分事業に関する広告を掲載した。</li> <li>・また、イベントの開催地域の自治体や経済団体等を訪問し、地層処分事業やNUMO業務に関する説明やイベントの紹介と参加をお願いするとともに、NUMOの対話活動に対するご意見をいただいた。</li> <li>・国から経済団体への依頼文書発送など、バックアップも受けながら、訪問活動を実施した。</li> </ul>				自治体：64ヶ所、127回	諸団体（経済団体含む）：130ヶ所、241回	<p><b>全国諸団体への訪問</b></p> <p>評価 B (BABBB)</p> <p>自治体や経済団体への訪問活動を強化していることは評価できる。しかし、先方の関心喚起にまでは至っていない。</p> <p>課題</p> <p>処分場が地域経済の活性化に貢献することの周知もさることながら、NUMOに対する信頼関係の構築が重要である。受け入れ側は東洋町での重要な事例を忘れていない。</p> <p>訪問においては、その質の向上、事後の評価が必要。過去の活動実績を真摯に検証することも必要である。粘り強く地道な訪問活動の充実が望まれる。</p>	
自治体：64ヶ所、127回									
諸団体（経済団体含む）：130ヶ所、241回									
II-1.3	<p>地層処分事業は長期にわたる事業であることから、将来を担う次世代層の関心を喚起し、理解を深めていただくために教育関係者向けのワークショップを5地域で実施する。ワークショップにおいては指導案および授業用教材を作成いただき、教育関係者向けのポータルサイトを通じてそれを広く提供する。</p>	<p><b>教育関係者向けワークショップの支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育関係者および教員を目指す学生の皆様に「高レベル放射性廃棄物の処分」という国民的課題があることを知っていただくとともに、それを学校の授業で扱っていただくことを目的とした支援活動を行った。（開始年度：2012年度）</li> <li>・具体的には、授業研究（学習指導案作成、教材開発等）を実践する全国10ヶ所の教育研究会組織が実施したワークショップ（参加者：計239名）に対し、事業概要説明や資料の提供等の支援を行った。</li> </ul>				<p><b>教育関係者向けワークショップの支援および地層処分为題材としたディベート授業への支援</b></p> <p>評価 A (ABBAAA)</p> <p>世代をまたぐ長期事業であるので、次世代の理解深化につながる教育関係者向けワークショップや、地層処分为テーマとしたディベート授業実施の意義は大きい。</p>			

事業計画	業務実施結果	評価委員会による評価
<p><b>教育関係者向けワークショップの支援</b> 【目標値】 教育関係者向けワークショップを5地域で実施</p> <p><b>地層処分を題材としたディベート授業への支援</b> ・将来を担う次世代層の関心を喚起し、理解を深めていただく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>こうした取り組みを広く知ってもらうため、報道関係者に事前に情報提供するとともに、当日の議論や発表及び質疑応答の様子をNUMOホームページで詳しく紹介した。また、各ワークショップで作成された成果である「学習指導案（18）」、「副教材（12）」、「実践授業動画」を、全国の授業で採用してもらえるよう、NUMOホームページ上の教員向けポータルサイトに掲載した。</li> <li>更に、各ワークショップの活動成果を共有する場として東京で開催された全国大会（受講者：91名）の様子を教育関係紙（2紙）に掲載し、全国の教育関係者へ情報提供を行った。</li> </ul> <p>[開催後の主なアンケート内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「どのような授業をすると、子供達がどのように考えたか、子供達の表情が動画を通してわかった。今後の授業づくりに生かしていきたい。」</li> <li>「社会科で扱う際に、公民的分野で『自分が首相あるいは判断する立場であれば最終処分場の問題をどうする?』という進め方に興味を持った。答えはないが、そのような難しい問題があることを討論によって実感できるといった。」</li> <li>「小学校3年生から取り組めることが新しい発見だった。」</li> </ul> <p><b>地層処分を題材としたディベート授業への支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地層処分事業について若者層（10代後半～20代前半）の「興味・関心」を喚起し、現世代で解決すべき国民的課題として捉え自発的に考えていただくため、千葉大学においてディベート授業のテーマとして取り上げていただいた。（受講者：計51名）（開始年度：2012年度）</li> <li>またその授業の場における事業内容説明、受講者を対象とした関連施設見学会の開催、資料提供等の協力を行った。</li> <li>NUMOからの情報提供やディベートの試合の準備等を通じて地層処分事業に関連する様々な知識を習得していただき興味・関心を高め、この問題を自発的に考えるきっかけとなったと考えられるので、より効果的な支援策を検討しつつ今後も継続する。</li> </ul>	<p>課題</p> <p>教育関係者向けワークショップは、授業を通じて子供たちへの正確な理解の浸透が期待されるため、その存在がより広く知られるようにすべきである。</p> <p>ディベート型授業では、賛否両論の情報も取り扱われるため、リスクコミュニケーションとも関連して効果、期待度ともに高いが、現状では各地での展開拡大に壁があり、その克服にはメディアの力を借りる発想が必要である。得られたコンテンツやノウハウを共有する方法論の構築も望まれる。</p> <p>ホームページ等に掲載する成果報告などでの誤字は、地層処分活動全般の信頼低下に直結するので撲滅が必要である。</p>

## 2. 応募をいただくための対話活動

事業計画	業務実施結果	評価委員会による評価
<p>II-2.1 対話活動等により地層処分事業に関心を持っていただいた地域においては、地域のみならずの関心や疑問に応じてきめ細かく対応するための説明会や、事業に関連した専門的内容に即したテーマ別の講演会、国内関連施設の視察等について、多くのみなさまに参加いただけるよう配慮し、内容を工夫しながら開催する。</p> <p><b>問い合わせへの対応</b></p>	<p><b>問い合わせへの対応</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問い合わせをいただく都度、地層処分事業の必要性・安全性や地域共生への取り組み等についてパンフレット等に基づき説明を行うとともに、より関心を広げていただくために、関連資料（パンフレット、DVD）の送付や直接訪問によるご説明を提案した。</li> <li>訪問させていただいた地域に対しては、先方のニーズを直接把握し、より具体的かつ分かりやすく説明することにより、更に理解を深めていただくこととともに、応募の検討に繋げていただくように努めた。</li> <li>また、問い合わせを待つばかりでなく、地域の諸団体等への訪問も継続している。（1-2参照）</li> </ul> <p>①電話 ・問い合わせ件数：15件、資料送付件数：58件</p>	<p>問い合わせへの対応 評価 C（CBCCAB）</p> <p>電話、ホームページによる外部からの問い合わせ件数があまりにも少ない。これでは応募の獲得も遠ざかる。</p> <p>課題</p> <p>問い合わせ件数の少なさの主因は、NUMOのウェブサイトにお問い合わせ電話番号が明示されていないことであろう。この問題は以前から指摘されているはずだが、</p>

事業計画	業務実施結果	評価委員会による評価	
<p>・地層処分事業に関してお問い合わせいただいた方に対し、事業内容を丁寧に説明し、理解を深めていただく。</p> <p><b>地域の自主的な勉強会等への支援</b></p> <p>・地層処分事業に関心をお持ちの自治体や地域団体等に対し、勉強会や関連施設の視察等の支援を行い、さらなる促進を図る。 【目標値】3自治体、9地域団体</p>	<p>②ホームページ ・問い合わせ件数：79件、資料送付件数：66件</p> <p><b>地域の自主的な勉強会等への支援</b></p> <p>・地層処分事業に関する地域の自主的な勉強会等支援事業については、全国の自治体・関係団体等（計4,300団体）に参加を呼びかけ、応募いただいた団体の中から、9団体に対し関連資料提供や施設見学会のアレンジ等の支援を行った。支援開始時と年度末には交流会を開催して地層処分事業を巡る現状等に関する理解を深めていただくとともに、団体間での交流を図った。（開始年度：2010年度）</p> <p>・今後は年間を通じて応募いただけるような仕組みへ改善し、本支援事業の更なる利用促進を図る。</p>	<p>改善がみられない。ウェブサイトの構成・内容を含めての再点検が必要。</p> <p>関心を持った人や団体、自治体にとって、NUMOの窓口をわかりやすくする工夫、対話する体制の整備を通じて、問い合わせ件数等を改善すべきである。</p> <p>地域の自主的な勉強会等への支援については、深地層研究を行っている瑞浪、幌延の施設見学を加えてはどうか。全体としての広報戦略を策定し、その中での個別の事業の役割や達成目標を位置づけていく必要がある。</p>	
<p>II-2.2 地域において発信力のある広報媒体を活用して定期的に情報提供するなど、地域に密着した活動を重点的に実施することにより、地域のみなさまの事業に関する理解を一層深めていただくとともに、さらに多くのみなさまにも関心を持っていただけるよう対話活動の頻度や密度を高める。こうした活動を通じて地域のみなさまとの信頼関係を構築し、幅広い層から事業に関する理解と支持をいただき、応募につながるよう対話を続けていく。</p> <p><b>メディアへの積極的な情報発信と理解活動</b></p> <p>・シンポジウムの開催や地層処分模型展示車の巡回展示に合わせ、発信力のあるメディアに対し情報発信と理解活動を行う。</p>	<p><b>メディアへの積極的な情報発信と理解活動（地方メディア）</b></p> <p>・シンポジウムの開催や地層処分模型展示車の巡回展示に合わせ、当該地の県政記者会や市政記者会等を訪問し、事業内容に関する説明と取材案内を行い、これらを通じて地層処分事業に対する理解促進を図った。（訪問45回）</p> <p>・この訪問活動の結果、シンポジウムの記事化につながった。（新聞：46、テレビ：6）</p> <p><b>メディアへの積極的な情報発信と理解活動（中央メディア）</b></p> <p>・在京の記者クラブに対する定期的な訪問（40回）とともに、科学論説委員や経済部長を対象とした意見交換会（各1回）と記者を対象とした勉強会（18回）を実施した。</p> <table border="1" data-bbox="863 1031 1249 1146"> <tr> <td>報道機関との意見交換会 2/24（報道機関9社） 3/23（報道機関2社）</td> </tr> </table> <p>・昨年7月に新経営体制へ移行したことから、2014年度は取材等によるNUMO理事長のメディアへの登場機会の積極的な創出に努めた。（記者会見2回、テレビ出演1回、記者向けの講演会1回、取材13回）</p> <p>・メールマガジンの発信（読者1,539名中447名、発信45回）により継続的な情報提供を実施。</p>	報道機関との意見交換会 2/24（報道機関9社） 3/23（報道機関2社）	<p><b>メディアへの積極的な情報発信と理解活動</b> 評価 B（BCBCAB）</p> <p>NUMOの知名度を上げ、事業内容を偏見のない形で社会に認知してもらうには、マスメディアの力を上手に借りることが上策である。遅きに失した感はあるが、その活動が始まったことを評価したい。</p> <p>課題</p> <p>地方メディア、中央メディアへの積極的な情報発信と理解活動とも、これまで低調にすぎた。臆せず、積極的に対応すべき。プラス材料だけでなく、リスク材料も提供して信頼を得たい。数の限られた中央メディアには役員が先頭に立って取り組むべきである。</p> <p>情報提供のあり方と記事化との関係も研究すべきテーマである。</p> <p>メールマガジンは「NUMOメールマガジン」「NUMOトピックス」とも魅力が乏しい。次号が待ち遠しい魅力ある内容でなければならない。一方、メールマガジンの有効性については疑義も呈されているところであり、取り組みには慎重を要するのでないか。</p>
報道機関との意見交換会 2/24（報道機関9社） 3/23（報道機関2社）			
<p>II-2.3 関心を持っていただいた地域の周辺市町村や当該都道府県域においても、地層処分についての理解を深めていただくため説明会等の対話活動を実施していく。</p> <p>こうした活動を通じて事業に関心を持っていただいた自治体との信頼関係を構築し、応募を獲得することを目指す。</p> <p><b>関心地域への対話活動</b></p> <p>・事業に関心を持っていただいた自治体との信</p>	<p><b>関心地域への対話活動</b></p> <p>・関心を表明する市町村がなかったため、対話活動の実施にはいたらなかった。</p>	<p><b>関心表明地域・周辺との対話活動</b> 評価 C（C-CBB-）</p> <p>関心を表明する市町村がなかったため、対話活動の実施には至らなかった——で済ませていては、これまでのNUMOと変わるところがない。</p> <p>課題</p> <p>政府での地層処分に関する議論が途上段階にあったとはいえ、なぜ応募がなかったか、受け身の姿勢でなかったか、NUMOの活動スタイルやスタンスに問題はなかったか等を検証し、次期の活動に生かしてもらいたい。</p>	

事業計画	業務実施結果	評価委員会による評価
<p>頼関係を構築し、応募を獲得することを目指す。</p>		<p>関心が表明された場合を想定してのシミュレーションを実施すべきであった。東洋町での重要な事例に対する分析は十分に行われているのか。今後も後手に回るようなことがあってはならない。市町村からの依頼には真摯に対応できるよう、万全の体制を敷いてもらいたい。</p> <p>NUMOが処分立地だけでなく、地域の発展に協力する視点も備えていることを普段からより強調すべきであり、地域おこしに詳しいスタッフを擁するほどの積極性が望まれる。</p>

### 評議員会による評価・提言

#### -シンポジウムの参加者数・開催回数等について

- シンポジウムの集客数の観点からは、定員の6割という数字は少なく、評価委員会報告のとおり新聞、SNS等多様な手法により事前告知を広範に行うべきである。
- 30か所という開催目標に拘りすぎたことにより、各回が粗製乱造となり、準備不足となってしまったのではないか。
- シンポジウムを全国29か所という規模でよくやったと思う。最終処分事業という、あまり関心を引かないであろうテーマとしては多く集まったとも言えるのではないか。内容はともかく、成し遂げたことは大いに評価したい。今後は自信をもって取り組んでほしい。

#### -シンポジウムの内容・運営等について

- シンポジウムの参加者に若者が多かったことは評価できる。登壇者に地元の大学生の参加を得たことが広く同世代への関心喚起に繋がったものと考えられる。また、会場からの質問受けや最後の一人まで回答する姿勢には好感が持たれたと思われる。これらの取組み姿勢が、「シンポジウムに参加してよかった」という反応が8割あったという成果に結びついたものと考えられる。
- シンポジウムへ参加することで、周囲から「地層処分に関心がある」と思われることを懸念して、参加に慎重となる人もいると思われる。このため、事前周知の際には、ただ広報メディア等に頼るだけでなく、シンポジウム開催地域においては特に、開催内容やその目的・位置付け等について十分な情報提供を行うことが必要である。
- さる会場では、自分たちの地域も処分場の候補地となる可能性があることが分かって、会場の雰囲気が変わった。地層処分事業を自分事として考えていただくためには、切迫感を感じさせることも効果的ではないか。
- より分かりやすい内容とするため、例えば専門用語を解説する「用語集」を配布したり、廃棄体の模型を展示したりするなど、改善していくことが重要である。
- 主催者としては数を集めることが重要ということであろうが、地層処分事業を初めて知る人や慎重な立場の方々により多く参加していただくことが重要である。このため、説明内容はあまり専門的なものとはせず、もう少し目線を下げて、「NUMOとは何か」「地層処分事業とは何か」といった基礎的な内容から語りかけていくことが、このシンポジウムの性格に合うものと思われる。
- NUMOの事業活動は電気料金を源とする拠出金によって賄われている。29回のシンポジウムの費用対効果もシビアに検証すべきである。

#### -科学的有望地の公表への取り組み、広報の全体戦略について

- 事業を巡る情勢変化を対話活動にしっかりと反映させていくことが重要である。例えば、放射性廃棄物ワーキンググループで検討されている「対話の場」の設置について、その設置支援をNUMOが担うという議論に対し、NUMOはどのような取り組みを行うのか、それに先行して地域の人々とどのような対話を行うのか、現段階から検討し、対話活動に反映していくべきである。
- 職員自らが対応するという取り組みに関しても、より一層、意識を高めるべきである。今後、地域に入って活動していくにあたり、NUMO職員自身を対象とする内部教育や研修等の充実した取り組みもまた重要である。

事業計画	業務実施結果	評価委員会による評価
<ul style="list-style-type: none"><li>■ これまでのように全国に網をかけるような広報を漫然と行うのではなく、国が有望地を公表するのであれば、そういう地域に対し重点的に行うなど、戦略的に対応すべき。</li><li>■ 今後、科学的有望地の公表の前と後で、全国に対してどうするのか、関心のある地域に対してどうするのか、戦略的な広報を検討すべき。</li><li>■ 科学的有望地が公表された場合においても、それ以降は有望地域に特化して活動するだけでなく、風評被害を防止する観点からも、全国的な対話活動を行うこともまた重要である。</li></ul>		